

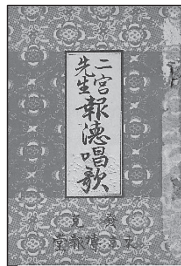
しゅうしんしょうか にのみやきんじろう

# #19 修身唱歌 二宮金次郎

作歌：大和田建樹（おおわだ・たけき 1857-1910）

作曲：永井孝次（ながい・こうじ 生没年不詳）

刊行：明治41年（1908）



※左より、『修身唱歌 二宮金次郎』、同左、『二宮先生報徳唱歌』



## ♪ 解題

### ■ 内容

修身とは旧制の小中学校の教科で、道徳教育を中心とする。本書は、小田原に生まれた江戸後期の農政家、二宮金次郎（1787-1856）の生涯を22番に渡って歌っている。表紙には、勉学に勤しむ少年時代の金次郎と、幕臣となって袴を着た晩年の金次郎（尊徳）が描かれている。巻頭に、数字譜を付記した五線譜が付いている。歌詞のあらすじは、農家の長男である金次郎が、幼くして両親に死なれ、一人で伯父の家に預けられながらも必死に働き、寝る間も惜しんで勉学に励んだ結果、実家を再興し、小田原藩主に召し抱えられた、という内容である。歌詞の6番に「山へ行くにも帰るにも 書を懐中より出だしては 見つゝあるけば狂人と 人は呼べども顧みず」とあるが、これは二宮金次郎像で有名な、薪を背負って歩きながら本を読む様子を表したもので、幸田露伴（1867-1947）著『二宮尊徳翁』（1891）に掲載された小林永興（1872-1933）画「負薪読書図」が元となっているが、近年は創作とされている。安政3年（1856）に金次郎の弟子富田高慶（1814-1890）が書いた

『報徳記 1』には「採薪ノ往返ニモ大学ノ書ヲ懐ニシテ、途中歩ミナガラ之ヲ誦シ」とあって、儒教の経書「大学」を懐に入れて歩きながら口ずさんだ、となっており、手に持って歩きながら読んだとは記されていない。従って、同じ姿勢で描かれた江戸時代の狩野派絵師による「朱買臣図」が見本と考えられている。朱買臣とは、貧しい家の出身だったが、薪を担ぎながら書を読んで、官僚に出世した中国の漢代の人物である。

また、歌詞の13番、14番に、捨ててあった苗を植えて育てたところ、秋になって一俵の収穫を得たという逸話が出てくるが、これは享和3年(1803)の出来事で、二宮金次郎の思想「積少為大」の礎となったとされる。

国立国会図書館サーチによると、本書の公共図書館での所蔵は、当館のほか鳥取県立図書館で所蔵が確認できる。

#### ■ 作者

作歌の大和田建樹は『地理教育鉄道唱歌 第1～5集』(1900) (#20) など多数の唱歌集を刊行している。また、詞華集『詩人の春』(1887)、『明治文学史』(1894)、『日本大文学史』(1899)、『大和田建樹歌集』(1912)などの著書がある。これらは当館で所蔵していないが、国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている。大和田については人物コラム7(p.47)も参照のこと。

作曲の永井孝次について詳細は不明だが、国立国会図書館サーチによれば『祝歌』(1920)、『卒業の歌』(1925)、『皇國精神にかへれ』(1929)といった合唱曲を作曲している。また、千住真智子の論考によると、明治39年(1906)に大阪音楽協会を創設している。

#### ■ 二宮金次郎の唱歌

戦前に二宮金次郎は、国家主義による国民教化に利用されたため、二宮金次郎にまつわる唱歌は数多く作成された。最も歌われたものは、文部省唱歌として『尋常小学唱歌』(第二学年用) (#12) に掲載された「二宮金次郎」(作者不詳)で、明治44年(1911)の作である。また、明治35年(1902)に作られ『教科適用幼年唱歌 四編下巻』(#7)に所収された「二宮尊徳」も知られており、こちらは桑田春風作詞、田村虎三作曲である。その他、当館所蔵

の『偉人唱歌 二宮尊徳』などがある。

### ♪ 類似の唱歌集

- ・『二宮先生報徳唱歌』石橋桂水作曲 大久保綱浦作歌 博報堂 1901 [K157/116]
- ・『偉人唱歌 二宮尊徳』下平末蔵作歌 大西正直作曲 [K157/300]

### ♪ 参考文献

- ・『報徳記 1』富田高慶著 大日本農会 1885 [K157/132/1]
- ・『二宮尊徳翁』幸田露伴著 博文館 1891 [K157/14]
- ・『二宮尊徳 菅原道眞 偉人唱歌』大西正直作曲 下平末蔵作詞 井上頼圀校訂 清水井文房具店 1910 [SH767.7/67]
- ・石井富之助「こんなにあつた二宮金次郎の唱歌」（『西さがみ庶民史録』第7号 西さがみ庶民史録の会 1984）[K20.7/8/4/8]

・千住真智子「関西の舞踊事情」（『舞踊學』第15号 舞踊学会 1993）

※当館未所蔵 舞踊学会 HP で閲覧可

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/buyougaku1978/1993/15/1993\\_15\\_32/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/buyougaku1978/1993/15/1993_15_32/_article/-char/ja)

- ・『二宮尊徳の生涯と業績』大貫章著 幻冬舎ルネッサンス 2009 [K157/653]
- ・『日本人の肖像 二宮金次郎』岩井茂樹著 角川学芸出版 2010 [K157/656]